

25年12月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成25年 11月20日～ 12月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は 8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)−(「減少」の評価を行った回答の割合)×2−(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		25/12月	26/1月	2月
伐採動向	スギ	20.0	0.0	△ 10.0
	ヒノキ	16.7	0.0	△ 16.7
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	エゾ・トド	50.0	100.0	100.0
出荷・販売動向	スギ	41.7	16.7	0.0
	ヒノキ	25.0	0.0	△ 12.5
	カラマツ	△ 50.0	△ 16.7	△ 33.3
	エゾ・トド	50.0	100.0	100.0
手持立木 在庫動向	スギ	30.0	10.0	10.0
	ヒノキ	16.7	16.7	16.7
	カラマツ	△ 16.7	△ 16.7	0.0
	エゾ・トド	0.0	△ 50.0	△ 50.0

伐採は、スギ、ヒノキとも12月の増加から1月の横ばいを経て2月には減少に。カラマツは減少基調で推移、エゾ・トドは増加基調で推移。
出荷・販売はスギは12、1月の増加が2月には横ばいに、ヒノキは12月の増加が2月に向けやや減少に、カラマツは減少基調で推移、エゾ・トドは増加基調で推移。
手持ち立木はスギ、ヒノキとも増加傾向で推移、カラマツは12、1月のマイナスが2月には横ばいに、エゾ・トドは12月の横ばいが1、2月減少に。

モニターからのコメント

(伐採動向)

・国有林のカラマツ間伐が終了し、トドマツ立木購買物件の素材生産に着手するのでトドマツの伐採が増加。

- ・スギ、ヒノキとも間伐のみ。
- ・スギは間伐のみ。
- ・集約化間伐を継続。
- ・合板、製材工場ともに手持ち丸太不足をきたしている、伐採強気。
- ・間伐材高齢級あり。

(出材・販売動向)

・トドマツ、カラマツとも複数の製材工場から引き合いがあり需要増加。トドマツの素材生産に着手するのでトドマツの販売量増加するが、地元製紙工場が生産調整しておりエゾ・トド原材料の動き悪い。
・出材は年度末、積雪により減少すると見込まれる。
・全般に需要旺盛でスギ中目中心に荷動きよし。

(手持ち立木在庫)

- ・トドマツは横ばいから減少、カラマツは伐採予定なく横ばい。
- ・スギ、ヒノキ共手持ちはゼロ。
- ・強気買入に転じている。
- ・民有林買入れ。